

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



ママ・パパ、楽しいいんだよ 乳児向け補完食講座が開催

11月29日、食堂ヤポネシアで「らくしてえ〜よ〜 おやごほん」が開催されました。赤ちゃんのためだけに手間をかけて作るイメージの大きい離乳食（補完食）。それぞれ2児の父・母でもある管理栄養士と料理人がタッグを組み、「子どもも大人も」同じお鍋で作り同じ料理を食べられるように提案されます。ゆくゆくは介護食への展開も計画されているそう。参加者の皆さんはなかなか見られない「よそのお家の離乳食」にレシピをメモしたり味を確かめたり、みんなで食べる同じメニューを楽しんでいました。

赤こんりポート

東恵子リポーター



ともに生きる共生社会をめざして ふくふくフェスタが開催

12月11日、「ふくふくフェスタ」が開かれ、8つの団体など約200人が参加しました。しが盲ろう者友の会は、本人さんの背中をたたき、サポート。テンポよくマラカスや太鼓を演奏し、フラダンスも披露しました。昨年は開催がかなわず、この舞台をととても喜んでおられました。成成亭いも子さんは「最近思う事」を題材に、コロナ禍の世相を落語で笑いに変えました。発達障がいと知的障がいのある人の疑似体験型啓発キャラバン隊「花bee」は、じゃんけんゲームやお弁当のスライドを使って、生きづらさを抱える人への理解を伝えました。「地域に必要なのは半専門家」というメッセージに共感を持ったといういきいき作業所(加茂町)の支援員・外山聖さんは「地域の人に発信できているのか振り返る機会になりました」と話していました。



赤こんりポート

今井良治リポーター



放水体験やかまどベンチ使った炊き出し 子どもたちが防災を学ぶ

災害からわが町を自分たちで守ろうと取り組む加茂町自主防災会が12月4日、賀茂神社隣の農村広場で子ども会を対象に消防・防災体験学習会を開催しました。平成29年から本格的に活動する同会が、地元の消防団や赤十字奉仕団の協力を得て初めて企画。参加した約60人の小学生の親子は、災害発生時にとるべき行動や火災予防の基礎について消防団員らから話を聞いた後、消防車に体験乗車したり、消火器や山林火災に使う背負い式消火水のうを使って放水体験をしたりしました。その後、自主防災会の会場となった同広場など町内3か所に設置した手作りのレンガ製かまどベンチで炊いたご飯でカレーなどを試食し、いつ起こるかかわからない災害への意識を高めていました。

11月20日



心にたくさんの「灯り」をともす 八幡堀まつりが開催

八幡堀周辺と町並み一帯を灯りでもすイベント「八幡堀まつり」が近江八幡観光物産協会主催で行われました。コロナ禍のため、灯りの数は例年の半数の1500個になりましたが、白雲館の2階と裏庭に手作りのあんどんやヒンメリなどを展示するほか、八幡堀に和傘を設置するなど、新しい灯りの演出を披露しました。訪れた人は、幻想的に照らされた八幡堀を歩いたり、写真を撮ったりして、景色を堪能していました。

11月19日・26日



「交通ルール守ってね」 ジュニアポリスが交通安全啓発

私立安土保育園のオリーブ組とポプラ組の5歳児、合わせて45人が2週にわたり、かわいい警察官（ジュニアポリス）に扮して、平和堂フレンドマート安土店で、買い物客に交通安全を呼びかけました。

少し大きめのジュニアポリスの制服に身を包んだ園児たちは、店の出入口2か所で、買い物客に「交通ルールを守ってね」と全員で声をかけながら、反射タスキやポケットエコバッグなどの啓発用品を一人ひとり手渡していました。買い物客は、笑顔で啓発用品を受け取っていました。

12月1日



歳末特別警戒運動にあたり 女優・五島百花さんが一日警察署長に就任

近江八幡警察署では、12月1日からの歳末特別警戒運動にあたり、県出身の女優・五島百花さんが一日警察署長に就任し、事故の防止を呼びかけました。

この日は午前中に出勤式が開催され、近江八幡地区交通安全協会の上阪廣子会長のあいさつのもと、五島さんの「出勤！」という掛け声でパトカーや白バイなど計25台がパトロールに出ました。

午後からは、イオン近江八幡店で交通・防犯イベントが開催され、交通関連のクイズや振り込め詐欺の寸劇、ビンゴ大会が行われました。五島さんは、「少しでも安心・安全なまちづくりへのお力になれば」と話していました。

12月14日



近江八幡建設連合会から 車いすと歩行補助器を寄贈いただきました

市内の建設業、保険業など多職種の個人・法人業者24社で組織する近江八幡建設連合会から、総合医療センターの利用者や市役所を訪れる人のためにと、車いす15台と歩行補助器10台を寄贈いただきました。

同連合会副会長の西野信司さんは「皆さんに喜んでもらえるものは何かと考え、寄贈させていただいた。お手伝いのできる範囲で支えていきたい」と思いを話していました。

コロナ禍の皆さんの健康を守っていくために、有効に活用させていただきます。

11月19日



八田仁左衛門さんに黄綬褒章

農業、商業、工業などの業務に精励し、他の模範となるような技術や功績がある人に授与される黄綬褒章を、八田仁左衛門さん（大中町）が受章されました。八田さんは、昭和46年から大中地域で肉用牛肥育経営に取り組んでいます。高い技術力は、これまでに近畿東海北陸連合肉牛共進会で最優秀賞の農林水産大臣賞、県内外の枝肉推進会で数々の賞を受賞されるなど、「近江牛」のブランド力向上に貢献されてきました。八田さんは「牛飼いをして50年の節目に、栄誉な章をいただけたのは皆さんのおかげです」と話していました。